

プラティープ財団主催

ひら
「人生を拓く模範青年賞」

全国で活躍する9人の青年が表彰されました



ドゥアン・プラティープ財団主催の「人生を拓く模範青年賞」の授賞式が9月24日に開催され、クロントイスラムやチェンマイ、パンガー県など全国各地で活躍する9名の青年たちが表彰されました。

本賞は、貧困や様々な困難に直面する中で、勉学に励みながら生活環境の改善に取り組んだり、家族を支えながら自分自身の人生を拓くために顕著な努力をしている青年たちを励ます賞です。ドゥアン・プラティープ財団がタイ証券取引所の協力を得て2008年に創設し、2016年で9年目を迎えました。

今年は首都バンコクを中心に古都チェンマイやパンガー県などの学校やNGO（非政府組織）等から24名の推薦がありました。審査は書類選考だけでなく、8月には候補者全員にクロントイスラムで行った1泊2日の研修会に参加してもらい、総合判断しました。選考委員会は9人で構成されており、財団創設者のプラティープ・ウンソンタム・秦さんをはじめ、タイ証券取引所、クロントイスラムにある小・中学校の校長先生、クロントイ警察署長らが委員を務めています。



その結果、（１）教育と自己啓発（２）地域社会への貢献と改善（３）親孝行や家族の手助けの３つの部門で各３名、計９名（男性１名、女性８名）の受賞が決まりました。

授賞式ではタイ証券取引所のラダワン部長が「タイの未来を築いていくためには、素晴らしい青年たちの努力なしには出来ません。この賞には、そうした大切な意味と目標があるので、タイ証券取引所は今後も支援を続けていきます」とあいさつ。プラティープさんは「受賞した皆さんは、さまざまな分野で力を尽くして努力している青年で、その努力はまるでダイヤモンドのように輝いています。どこにいても、そしてどんな困難があっても、この賞に込められている願いを忘れずに頑張ってください」と励ましました。

受賞者は次の通りです。

【１】 教育と自己啓発部門

（１） ラックシッカー・カーウオンガン（通称ネーン） 16歳女性

・ クロントイラム在住 専門学校1年

- ・ 両親の離婚後、父と祖母の下で暮らして来た。
- ・ 学業成績が極めて優秀で、中学3年間の成績評価は3.86と満点（4）に近い。
- ・ 小学生の時からドゥアン・プラティープ財団の奨学金を受給しており、放課後や休日に財団の活動を手伝っている。



（２） スターシニー・ホッドーン（通称ペーン） 19歳 女性 ・ クロントイ区
在住 高等専門学校3年

・ 専門学校入学以来の成績は3.98～4（満点4）

- と非常に優秀。
- ・ タイ人としての礼儀作法を競う大会で銅メダルを受賞する。
- ・ 学外活動にも積極的に参加して、負傷兵への募金活動などに参加している。



(3) ナルソーン・ブンシリ (通称ノット) 21歳 男性

・バンコク在住 大学3年

- ・ Web サイトを作成する発想力が大変豊かで、タイ国内の7つの大学の学生たちと連携して子ども向けの Web サイトのネットワークづくりに取り組んでいる。
- ・ タイ政府の開発促進賞を受賞してシンガポールの国際大会に出席するなど、「社会起業家 (ソーシャル・エンタープリナー)」としての活躍が期待されている。



【2】 地域社会への貢献と改善

(1) ハッタヤー・アクソンプロム (通称アーイ) 20歳 女性

・チェンマイ在住 大学3年

- ・ チェンマイ大学にある地方の村々の文化・習慣を伝承するサークルの代表として推薦された。北タイではすでに忘れられかけている踊りの復活にも努力している。村々を訪れて学んだり、保存・伝承のための移動キャンプも行っている。



(2) ピッタネー・シーサマー (通称バーイファン) 20歳 女性

・バンコク在住 大学2年

- ・ 看護師になるための勉強に励むかわら、絶滅が懸念されるマングローブの植樹やサンゴの保存活動に取り組んでいる。
- ・ また南タイの紛争で負傷したり、病気にかかった兵士たちへの救援・支援物資を送る活動にも参加している。



(3) ウイヤガーン・バウイッサクン (通称ナーリヤ) 22歳 女性

・バンコク在住 NGO「シーカーアジア財団」の人形

劇団スタッフ

- ・大学卒業後、指人形を使いながらスラムや村々の子どもたちを楽しませるストーリーテラーとして活躍している。
- ・また落ち葉や枯葉など自然素材を使ったEM菌を作り、タイに多い運河に散布して汚れた水の浄化活動にボランティアとして参加している。さらにその運河を走る観光船に乗ってガイドをして两岸の風物の案内をしている。



【3】 親孝行や家族のサポート

(1) カノック・ワン (通称アーン) 17歳 女性

- ・クロントイスラム在住 専門学校2年
- ・両親の離婚後、祖父母と暮らし、プラティープ財団の奨学金を得て勉強を続けて来た。
- ・家計を支えるため、月曜から金曜日までラーメン店の店員をしている。
- ・土、日は財団の各種行事をボランティアとして手伝っている。



(2) チョンティチャー・セーイヨー (通称ファーイ) 17歳 女性

- ・バンコク在住 専門学校3年
- ・日雇いの父と二人暮らし。父の仕事が長引く不況で少なくなる中、レストランでアルバイトをして家計を支え、家事を行っている。
- ・その多忙な毎日の暮らしの中で、ガールスカウトの活動を熱心に続けている。



(3) パッチャラポーン・バーンピア (通称プレー) 18歳 女性

- ・タイ西部パンガー県 高校3年
- ・幼い頃、両親が離婚し、祖母と二人だけの貧しい生活が続いて来た。その祖母がリューマチで動けなくなった後、祖母に代わって野菜作りを行い、その野菜を売りながら看病にあたって来た。
- ・その祖母が亡くなった6年前から、大津波の犠牲で親を失った子どもたちを養育しているバーンターンナムジャイ財団の寮に入所し、勉学を続けている。
- ・勉強熱心で詩を書くのがうまい。将来は社会福祉の仕事に就きたいと願っている。

